

令和3年～令和4年度

研究集録

第2号

研究主題

生徒の「今」と向き合い、生徒と共に「未来」につなぐ
～個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた自立活動～



校訓 『未来 チャレンジ 感謝』



北海道札幌あいの里高等支援学校

はじめに

北海道札幌あいの里高等支援学校長
西 牧 孝 徳

本校は、平成28年度に開校して7年になりました。札幌拓北高等学校が閉校となり、10間口の大きな校舎を引き継ぎました。私が着任した際に校舎を歩きながら、ここで学んだ高校生はどこへ行ってしまったのだろうか。少子化の影響がここまで進んでいるのかと実感しました。一方で特別支援教育（特に知的障がい教育）が必要な生徒が増加している傾向が続いていますが、これがいつまで続くのか、どうなっていくのか懸念されるところです。平成18年12月に国連総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、日本では翌19年9月に署名し、平成26年1月に批准しました。この条約は、全ての障がい者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障がい者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とし、いわゆる「合理的配慮」や「インクルーシブ教育システム」等の理念を提唱する内容となっています。これらを基に、平成28年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供が求められるようになりました。ちょうど本校が開校した年の話です。

特別支援学校での教育では、生徒の特性に合わせた合理的配慮が求められます。生徒が安心して学校生活を送るために、学校は適切な情報保障や環境整備が求められます。その上で、卒業後の社会生活に向けてどのような力が求められているか、生徒一人一人の実態に合わせた教育課程を編成しています。教育課程は、各教科、道徳科、特別活動、総合的な探究の時間及び自立活動など、生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、自立し、社会参加することを目指して編成します。まだまだ成長の途上にある本校の生徒たちは、将来の働く生活を見据えて様々な知識や技能を学び、経験し、力を身に付けなくてはなりません。

本校では、令和3年度から2か年をかけて「自立活動」をテーマに研究を進めてまいりました。自立活動は、個々の生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことを目的に、6区分27項目に沿って、生徒の課題を明確にした目標の設定、教育の実践、評価を実施することが定められています。学習指導要領の直近の改訂では、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実、好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められました。①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）これらに加えて、特別支援教育に関しては、①インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進②子供の障害の重度・重複化、多様化③社会の急速な変化と卒業後を見据えた教育課程の在り方などに対応し、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を通して、自立と社会参加に向けて育成を目指す資質・能力を身に付けていくことができるようにする観点から、教育課程の基準の改善を図ることが示されています。

本校では各学年に分かれて研究を進めてまいりました。学習指導要領解説自立活動編には、知的障害者である幼児児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する幼児児童生徒には、全般的な知的発達の程度や適応行動の状態に比較して、言語、運動、動作、情緒、行動等の特定の分野に堅調な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が知的障害に随伴して見られる。そのような障害の状態による困難の改善等を図るためには、自立活動の指導を効果的に行う必要がある。と記されていて、各研究グループとも本校における自立活動の在り方や指導方法、留意点等を整理したところです。一読いただいた感想や御意見をいただくことで、更によりよい教育の実践に繋がりたいと考えてところです。

目 次

はじめに

I	本校の概要	1
1	教育課程	2
2	在籍する生徒について	3
II	校内研究について	
1	研究テーマ	5
2	研究テーマ設定の理由	5
3	研究仮説	11
4	内容と方法	11
III	研究の実際	
	【1年次研究】	
1	研究の内容と方法	12
2	研究のスケジュール	12
3	研究の経過と結果	13
	（1）自立活動について事例研究を通した実践検証	13
	（2）本校生徒に適した学びの検証	22
	（3）校内研究に関するアンケート	29
	【2年次研究】	
1	研究の内容と方法	32
2	研究のスケジュール	34
3	取組について	34
	（1）自立活動について事例研究を通した実践検証	
	①個別の指導計画（校内研究用）の作成～実践～評価	35
	②授業検討「個別最適な学び」と「協働的な学び」	87
	（2）校内研究に関するアンケート	132
IV	研究のまとめ	
1	成果と課題	137
2	研究仮説の検証結果	138
3	これからの課題	139
V	資料	
1	1年次に取り組んだ事例	141

おわりに